

武庫川縦断シリーズ②南矢代から藍本

第 193 回武庫川エコハイク

2023. 6. 10 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²・丹波篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門（むこみなと）」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は丹波篠山市にある。丹波篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川渓谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22(2010)年 10 月、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

ふるさと桜づつみ回廊 兵庫県が、平成 3 年から平成 12 年度にかけて、瀬戸内海から日本海を結ぶ延長約 170 kmの河川沿い(武庫川～篠山川～加古川上流～円山川)を約 5 万本の桜でつなぐ「ふるさと桜づつみ回廊」を整備した。「桜づつみ」とは、河川用語。洪水から堤防を守るために必要な堤防断面に加えて、堤防の市街地側に土を盛り、そこに桜を植栽するものです。

武庫川上流 武庫川上流部は標高 200m 足らずで、勾配がゆるく、洪水時には武庫川などが溢水して、周辺の農地に冠水することが多い。

武庫川起点 武庫川の河川管理上の起点、田松川と真南条川の合流点、丹波篠山市南矢代この辺りは冠水常襲地。標石は昭和 40 年 9 月の 2 級河川指定されて設置された。この辺りは断層地形、古い御所谷断層が走る。

高仙寺 松尾山にあった高仙寺は天正 7 年(1579)、明智光秀の侵攻の兵火により全山焼打ちで焼失。大正 10 年(1921)に現在地南矢代の地に移された。

栗栖野 栗を栽植した事から名が付いたという。裏山に酒井氏の築いた山城栗栖野城跡がある。

残石公園 篠山城築城時に栗栖野から石を運んだが、一部の石が残され、残石公園にある。

篠山産業高校丹南校 昭和 25(1950)年創立、最初は定時制、昭和 46(1971)年全日制に、武庫川、里山の学習に熱心であった。平成 28(2016)年度に閉校になった。

真栗(しんりつ)浄化センター 栗栖野、真南条他の農業集落排水施設。国交省所管。

船瀬橋 当野にあり、国道 372 号線が通る、大江匡房の歌「船瀬橋 みづきものはこぶ舟せのかけ橋に駒のひ津めの音ぞ絶せぬ」が見える。

波賀野川合流点 見内の谷から流れる波賀野川が合流する。

上流武庫川改修 水田の冠水常襲地域の真南条川から三田市日出坂までの上流武庫川の改修がすすめられている、この辺りは**貴重な生物の生息・生育空間**なので専門家、住民を含めた上流武庫川「自然を生かした治水対策」検討委員会を設置してこれらの生物の保全のための改修工事が進められている。**武庫川河川敷に転石があるのは武庫川渓谷以外この当りだけ。**

古市浄化センター 当野、波賀野、古市地区の下水処理施設(コミュニティプラント)。環境省所管。

古森(こうもり) 河守部から。天神川と武庫川の合流点にある集落。

治水の記念碑「治水済民」 この地区の慢性的洪水被害をなくすための治水が行われたことの記念碑、昭和 10 年に建てられている。今は古森公民館の一角にある。

金印灯籠 古森公民館前にある高さ 2m の自然石の灯籠、金比羅講の灯籠。

油井(あぶらい) かつて油の出る井戸があったとか、湧き水があふれるほどあったという「溢れ井」から「油井」となったと諸説がある集落。

油井城跡 天神川と武庫川の合流点低山にあり、天神川と武庫川に囲まれた要害。篠山八上城主波多野氏の前城で酒井氏の居城。**油井西城跡**は油井城と天神川を挟んで西側にあった。

神橋(しんばし/蛩橋) 国道 176 号線に架かる、欄干に蛩のモニュメントがある。

油井住吉川 小野原峠から流出する。草野公民科付近で武庫川に合流する。

古市南部浄化センター 旧古市村南部地域の農業集落排水施設。油井住吉川に排出。

冠水常襲地 油井から草野地区は洪水時の冠水常襲地。

草野 草野は洪水常襲地で開墾もできぬ草原だったことから来ている。

JR 草野駅 星の駅という、夜空に星がよく見える。周辺に星のモニュメントがある。

稻荷社 正一位稻荷大明神と小社がある。

摂丹国境の松 丹波篠山市と三田市の市境にある松で昔は 4 本あった。マツクイムシによる枯死。現在は細田橋の右岸側に「封人の松」の碑がある、封人(国境を守る人)の運動で国境松のクローン松が植樹されている。摂津と丹波の国境の目印、細田橋左岸側に国境の碑がある。

丹波の森街道の始点 国道 176 号線の丹波篠山市側から「丹波の森街道」が始まる。

細田橋 国道 176 号線にかかる丹波篠山、三田市境の橋。

日出坂(草野坂) 丹波道摂津最北端の集落。摂津と丹波の国境の峠(225m)、今はJRがトンネルでぐり、国道 176 号線は武庫川沿いに走っているが、昔は難所で丹波杜氏たちが山越えした。「丹波出るときゃ涙が出たが藍の日出坂歌で越す」といわれた名所。今はまいずる若狭道が峠の上を通り、峠越えは通行不能となっている。

物言い地蔵(伝承) 日出坂の峠下(摂津側)にあるお地蔵さんには伝承が残っている。摂津側には「物言い地蔵」で子ども行く末を予言した地蔵さん。丹波側には「物言わぬ地蔵」で昔馬方が人を殺して金子を奪ったのを見ておられたお地蔵さんが、「物言うな」といったのに後年これを口に出して遺児に悪事がばれた話。

丁子淵(てこぶち)と伝承 河川改修でなくなったが丁子淵があった。「藍の丁子淵、青野の蛇藍(じらん)、はては井沢の嫁ヶ淵」と恐れられた。昔丁子源蔵という侍が仲間との争いからここに身投げをしたが、その後身投げするものが続くので、祠を祀って慰霊したら身投げがなくなったという。右岸側に丁子淵跡が残る。今この祠は下流の丸山の山頂に祀られている。

夫婦岩 高井橋の上流左岸の藪の中に夫婦岩がある。

日出坂洗いざき(環境に配慮した床止工) この辺りは武庫川が大きく湾曲しており、洪水時川が氾濫しやすい場所で、治水対策を住民、専門家、県、市などが検討会を持ち、生物の生息・生息環境を生かしながら河床を掘削して川幅を広げて洗いざきを設けた。地元の「日出坂せきもりの会」が保全活動をしている。子どもたちの親水空間としても利用されている。

虚空蔵山登山口 虚空蔵山(592m)の裏山道登山口。表参道登山口は近畿自然歩道「丹波焼をたずねる道」になっている。

藍新町 丹波道(くらがり街道)の宿場町、古市宿と道場河原宿の間になる。

JR 藍本駅 相野駅、広野駅とともに明治 32(1899)年当時の阪鶴鉄道の三田駅から篠山口駅までの延伸にともない開業。